

潜在保育士復職支援研修及び卒後リカレント教育 －2019年度活動報告－

**Report on the Activities of the Recurrent Education and the Job Training Project
for Potential Nursery Teachers: A Report of the Activity 2019**

小 谷 彰 吾 ・ 柴 川 敏 之
鎌 田 雅 史 ・ ズビャーギナ章子
土 田 耕 司 ・ 松 本 希
秋 山 真理子 ・ 荊 木 まき子
土 倉 由 妃 ・ 澤 津 まり子

潜在保育士復職支援研修及び卒後リカレント教育 －2019年度活動報告－

Report on the Activities of the Recurrent Education and the Job Training
Project for Potential Nursery Teachers: A Report of the Activity 2019

- | | |
|--------------------------------------|---|
| 小 谷 彰 吾 (幼児教育学科)
KOTANI Shogo | ・ 柴 川 敏 之 (幼児教育学科)
SHIBAKAWA Toshiyuki |
| 鎌 田 雅 史 (幼児教育学科)
KAMADA Masafumi | ・ ズビャーギナ章子 (幼児教育学科)
ZVYAGINA Akiko |
| 土 田 耕 司 (幼児教育学科)
TODA Koji | ・ 松 本 希 (幼児教育学科)
MATSUMOTO Nozomi |
| 秋 山 真理子 (幼児教育学科)
AKIYAMA Mariko | ・ 荊 木 まき子 (幼児教育学科)
IBARAKI Makiko |
| 土 倉 由 妃 (潜在保育士プロジェクト)
TOKURA Yuki | ・ 澤 津 まり子 (幼児教育学科)
SAWAZU Mariko |

キーワード：潜在保育士，復職支援，卒後リカレント教育

I. はじめに

2019年10月1日から始まった幼児教育・保育の無償化により、「待機児童問題」がこれまでよりもさらに深刻化する可能性が指摘される現在，岡山市においても保育士不足はかなり深刻な状況にあるといえる。今年度，岡山市の保育所・認定こども園等への入園状況は，18,284人の入園申込に対し，16,817人を入園決定した結果，認可保育所等に入れなかった児童は1,467人，そのうち待機児童は353人となった。(2019.4.1現在)¹⁾一昨年の849人，昨年の551人に対し待機児童数は2年連続の減少となったものの，全国の自治体の中では依然として高い水準にある。さらに，市は新たな受け皿となる認可保育所や認定こども園の新設などの整備を進めてきたが，保育士不足が原因で定員数を受け入れられないという現状があり，保育士の確保について早急の対応策が求められている。

就実短期大学幼児教育学科では，保育士としての勤務経験の有無にかかわらず，保育士資格を持ちながらも就業していない「潜在保育士」の保育士復帰を後押しすることを目的として，2014年度に潜在保育士復職支援プロジェクトを立ち上げた。研修会では各種講義や附属園での体験実習，情報交換会を行っている。2014，2015年度は岡山県の委託事業として，

2016年度は公益財団法人福武教育文化振興財団の助成を受けて活動した。また、本プロジェクトでは2015年度以降、潜在保育士復職支援研修会に加えて、現職の保育士を対象とした「卒後リカレント教育研修会」としても同時に実施し、離職者を防ぐための一助を担っている。

2018年度の活動報告²⁾のなかで、「情報の周知及び案内方法」、「研修内容の改善」、「情報交換会の目的・内容の明確化」の3点が今後の課題として挙げられた。1点目の「情報の周知及び案内方法」に関しては、研修会ポスターや案内チラシの送付など従来通りの方法に加え、ホームページやSNSの活用をより一層充実させることが今年度の課題となっている。2点目の「研修内容の改善」については、各教科それぞれの講義のなかで、より実質的で即戦力に繋がるような内容を盛り込み、受講者のニーズに答えていくことが求められてきた。3点目の「情報交換会の目的・内容の明確化」では、最終日に行われる「情報交換会」に関する目的・内容を明確にするため、「情報交換会」という名称そのものを検討したり、内容が明確に受講者に伝わるよう別途チラシを作成したり等工夫したりすることで、受講者が参加しやすい環境を作ることが望まれた。

本報告は、上記のような課題解決を念頭においてすすめた、2019年度の潜在保育士復職支援研修及び卒後リカレント教育研修会について、その経過及び結果をまとめたものである。

II. 活動の内容

昨年度に続き、潜在保育士復職支援の研修会を以下の日程で実施した。本研修会は、リカレント教育研修会も兼ねており、受講者の中には現職の保育者も参加している。研修会内容及び受講者数は表1に示す通りである。以下に研修会の様子、講義内容と受講者の感想を示す。なお、表1の講義内容の科目名の前に記した丸付き数字と研修会の様子及び講義内容に記した丸付き数字が対応している。また、本研修はすべての回を受講することも、関心のある回だけ参加することも参加者の自由としている。そこで、本年度は、毎回の研修の様子をコメント付きの図にまとめ、会場に掲示し、毎回の様子が見えるように工夫した(図1)。

また、毎回の講義の配布物に関しては、受付で希望者に配布するようにしている。



図1. 研修内容をまとめた掲示

表1. 2019年度潜在保育士復職支援及び卒後リカレント教育研修会一覧

日程	講義内容 (10時～12時)	受講者	講義内容 (13時～15時)	受講者
8/17(土)	①相談援助 (土田※)	9名	②図画工作 (柴川)	7名
8/28(水)	③保育者論 (小谷)	8名	④声楽 (ズビャーギナ)	7名
9/7(土)	⑤特別支援 (鎌田)	9名	⑥情報交換会 (澤津)	5名
9/11(水)	⑦就実こども園での体験実習 (9～16時)			2名
9/14(土)	⑧就実こども園での体験実習 (9～16時)			1名

※都合により、村田先生(就実大学教育学部初等教育学科)に変更した。

*2カ年(本年と次年)で1サイクル(全科目)になるよう実施予定。

【研修会等の様子】



①相談援助



②図画工作



③保育者論



④声楽



⑤特別支援



⑥情報交換会



⑥情報交換会



⑦⑧体験実習



⑦⑧体験実習

①相談援助

「相談援助とは」という基本的な内容に触れ、「保育士」として相談を受ける際の大切なことについて講義が展開した。相談を受ける上で、「まず相手を受け止めること」や自分を知っていてコントロールする力「自己覚知」、話を聞くときのあいづちやアイコンタクトなどの「傾聴」についてポイントを学んだ。その後、「相談者」「聴き役」「観察者」に分かれ、「傾聴」を取り入れる場合と全く取り入れない場合のグループワークを行った。「傾聴」の有無で、相

談者の心が安定し、開放されることで順序立てて話ができたり、より深く心の内を話せたりできることを学んだ。

受講者による感想

- ・「相談援助の方法と技術」を学んで、相手の悩みを聞き出すのは大変な仕事だと思いました。
- ・本格的な講義で少し難しかったですが、演習を体験してみて、実際の保育をおこなう上でとても重要なことだとわかりました。基本的なことではあるが、なかなか触れることのない話だったので、また改めて心や頭に留めておきたいと思いました。
- ・演習を交えながらの研修で勉強になりました。自分で本を読んで内容を把握するよりも、研修に参加する方が自分の中に入ったように思いました。

② 図画工作

前半は本学オリジナルの「首掛け式パネルシアター」や「フェルトシート」、「折りたたみ式ダンボールハウス」など保育現場で子どもたちが楽しめる手作り教材やクリアファイルを使った動物シルエット、折り紙を集めて作った壁面構成等の紹介があった。また、保育現場では特に重要になる子どもたちの製作活動上の安全を考慮した画材の選び方や保育士が効率よく作業するための道具や画材などについての知識を学んだ。後半は、机にロープや蚊取り線香など身近なものを敷きつめ、好きな部分をローラーと黒インクで写し取る「ローラー拓本」の実技を行った。いろいろな模様が浮かび上がる発見を「発掘体験」と称したり、出来上がった拓本作品に裏から着色したりしてスタンドグラスのように仕上げる「裏彩色（うらざいしき）」の技法を学んだ。

受講者による感想

- ・図画工作から離れて何年も経つが、とても楽しい研修でした。
- ・図画工作において、子どもがする活動だけでなく、大人がする活動の裏ワザ（時短、キレイにできる用具の紹介）が聞けて大変興味深かったです。子どもたちにたくさんワクワクを体験させてあげたいと思いました。
- ・保育園の中だけの図画工作ではなく、広がりのある授業内容でとても面白かったです。家庭でも子どもと楽しみたいと思います。

③ 保育者論

机を向かい合わせて意見交換をしながら行われた。日本の子どもたちの現状とそれらを取り巻く社会や環境に触れ、幼児教育がいかに重要であるかという視点から講義が展開された。日本の学生（13才～22才）の約8割が「毎日が憂鬱」と答え、「挑戦する気持ち」は約半数に留まっているとの統計に対し、周りに合わせるのではなく、自ら一歩踏み出して挑戦する「ファーストペンギン」を育てていく土壌を作っていくことがこれからの課題であると解説

した。また、保育士は自然に目を向ける「意識」と「ゆとり」を持ち、遊びに取り入れていくことや保育士自身の「?」と「!」が子どもを育てるのだということ、さらに、保育士には「笑顔」「哲学」が必要であることや「人格者をめざす」必要がある事を学んだ。

受講者による感想

- ・保育者としての考え方、行動のあり方等改めて考えさせられました。これから自分を高めていけるよう行動していきたいと思います。
- ・保育士として働くときの哲学のようなことを教えていただき、目が覚めた思いです。今日から気持ちを入れ替えて保育の仕事に向き合おうと思います。
- ・講座を受講して、自分の育児で「早く!」とすることがあるので反省しました。勉強したことを家庭、職場で生かしたいです。

④声楽

保育活動では身体を壊さないことが重要であることに触れ、正しい姿勢や呼吸法についてストレッチを交えて解説した。そして、ハミングから始まり、「ma」の発音で音階に合わせて発声練習を行った。また、「音痴で歌が苦手」「大きな声が出ない」との悩みに対し、「まずは自分が楽しんで」「子どもに合わせた声の大きさが良い」と解説し、学生のテキストである「コールユンブングン」を使った半音階練習で、音程を合わせるコツを教わった。他にも『カエルのうた』を色々なコーラスや、『とんぼのめがね』の歌詞を自由に創作し、実践を通して学んだ。

受講者による感想

- ・声楽では、特にストレッチがためになり、仕事の前や日々の生活の中で取り入れていこうと思います。学生の頃の楽しさを思い出し、楽しい時間でした。
- ・2回目ですが、先生の楽しい話術とともに楽しい時間が過ごせました。自分も楽しく笑顔を忘れずに日々過ごす事で関わりを持った人も楽しくなる事を実感しました。
- ・音楽はとても苦手でしたが楽しかったです。声が出ていなくても笑顔で歌ってみようと思います。

⑤特別支援

講義の前半部分では、特別支援教育に関する基本的な理念や教育行政の動向、発達障害とはどのような障害であるかについての基本的事項について概説を行った。特に、発達障害を放置することによる二次障害のリスクや支援をするためには適切な知識が必要であることを示した。後半部分では、『気になる子ども』との関りを円滑にするための、具体的な支援方法や留意点に関して紹介した。特に、ペアレントトレーニングや応用行動分析学の視点から、気になる子どもへの関りかたや支援の方法を紹介した。また、保育者の関りが意図しないメッセージを送ってしまう危険性についても、具体例を交えて紹介した。

受講者による感想

- ・発達障がいについて学ぶ機会がなかったので、参加できてよかったです。具体的な支援の方法、褒めることの重要性がわかったので参考にしたいです。
- ・有効な誉めるタイミング、望ましい行動を増やすように考える、叱る基準を明確にすることを特に考えたいと思います。
- ・具体的な例も取り入れてくださりながら、一所懸命講義して下さっている感じがよく伝わりました。

⑥情報交換会

就業支援、離職防止に係る情報（意見）交換会を開催した。潜在保育士の方には就職に向けた話が、現役の保育士の方には日々の保育の悩みや保育の情報交換が展開された。幼児教育学科の教員2名、岡山市岡山っ子育成局保育・幼児教育課から担当者2名の出席のもと、保育士復帰を後押しする話や、再就職に関する取り組み、簡単な手作りおもちゃが紹介された。

次に復職に成功された方の話として、過去に当研修会を受講した方から研修を受けるきっかけや就職までの経緯、現在育休中で1月の復帰を目指している状況などの話が紹介された。他にも現役の保育士から「体力面の悩み」や「もっと保育の勉強がしたい」など働きながら日頃思っていることを皆さんで共有した。

このように潜在保育士の方、現役の保育士の方、幼児教育の勉強をされている方など、いろいろな方に参加していただき、気軽におしゃべりができる場として機能した有意義な会となった。

受講者による感想

- ・「情報交換会」では、行政サイド、現場サイドと様々な面の話が聞けて参考になりました。
- ・現状をお聞きしてすごく参考になりました。学ぶ場をいただきありがとうございました。
- ・いろいろな話が聞けて良かったです。保育に対するモチベーションが上がりました。

⑦⑧就実こども園での体験実習

平日と土曜日の2日間、朝9時から夕方4時まで、1歳児、2歳児の希望するクラスに入り、遊びだけでなく、食事、排せつ、着替えなど生活面のこと等、保育士が行っている日常業務を体験した。この実地研修では、実際の保育の環境や、子どもと直接関わるなかで、年齢による発達過程を理解することはもちろん、保育士の仕事内容や子どもたちとの関わり方などを間近で見られる機会となった。また、保育士に直接、子どもたちへの思いや保育について聞くことができ、有意義な実習となった。

受講者による感想

- ・実習経験なしで保育士資格を取り、短時間パートとして働き始めたので保育園での一日の

流れや仕事の基本的なことを学ばせて頂き、貴重な経験となりました。

- ・10年ぶりの保育体験でした。初めは人見知りしていた子どもたちも少しずつ話をしてくれたり、遊んでいるうちにひざに座ってくれたりして嬉しかったです。
- ・現場での実習や実技、理論などは日頃の目線と違うことばかりなので、体験実習に参加することはとても有益だと思いました。

Ⅲ. 得られた成果及び評価

1. 受講者アンケート調査

研修会の受講者に対し、無記名式のアンケートを実施した。結果を図2～5に示す。

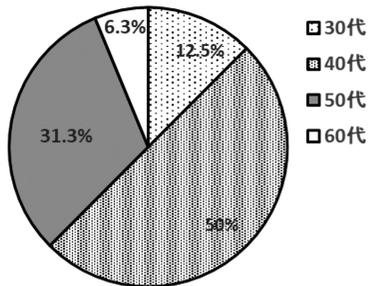


図2. 受講者の年代

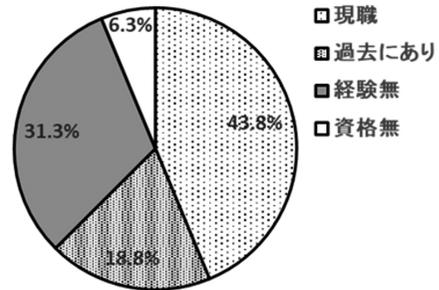


図3. 受講者の就労経験

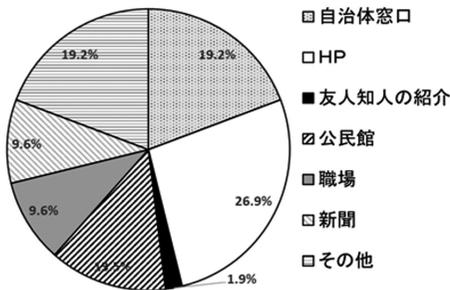


図4. 受講のきっかけ

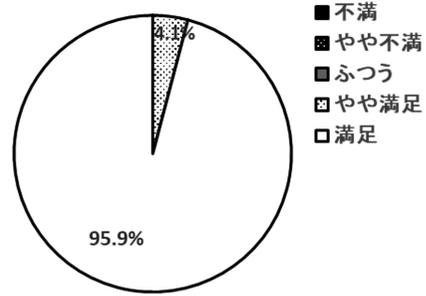


図5. 受講満足度

受講者の年齢層は、40代（31.3%）、50代（50.0%）が過半数であった（図2）。2015年からは、卒後リカレント教育の場としても研修会を実施しているが、受講者の43.8%が現職者であった（図3）。受講のきっかけは、ホームページが26.9%、自治体窓口が19.2%、その他が19.2%であった（図4）。満足度をみると、95.6%が満足している、4.1%がやや満足しているという回答であり（図5）、不満であるという回答は見られなかったことから、研修内容については概ね受講者の期待に沿う内容であったと考えられる。

2. 潜在保育士復職支援研修会の実施状況

潜在保育士復職支援プロジェクトは、2014年度より取り組んでいる。研修会受講者及び再就職をした者の動向は、表2に示す通りである。

復職支援の成果としては、2017年度は8名（実受講者数の36%）、2018年は3名（実受講生の12%）、2019年は1名（実受講生の6.3%）が就職に結びついた。今年度は、少なかったものの、2014年度以降、地道ではあるが着実に保育者を輩出しており、今後も活動を継続していく意義が認められる。

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
研修申込者数	52名	24名	28名	23名	29名	19名
実受講者数	31名	22名	24名 (12名)	22名 (9名)	25名 (13名)	16名 (6名)
就職者数 (内定者含む)	5名	5名	7名	8名	3名	1名

() 内はリカレント研修の受講者 *2020年1月15日現在

IV. 残された課題とその解決への展望

今年度の潜在保育士復職支援プロジェクトおよび卒後リカレント教育研修会を実施した結果、以下の3点が課題として考えられる。

1点目として、昨年度に引き続き本研修会を必要としている人への情報の周知及び案内方法である。例年通り、今年度も子育て支援センター等の公共機関や保育所、幼稚園、子ども園等の関連機関にポスター・チラシを配布した。地元新聞が案内記事を掲載してくれたが、昨年比で受講生数は9名の減少となった。今後、対象者の新規拡大を図る必要がある。本研修会を知るきっかけになった場所は、自治体の窓口やホームページが多く、公民館や職場、新聞広告と答えた方もいた。昨年度、保育士の離職原因の理由は結婚や妊娠・出産^{2) 5) 6)}が多く、さらに保育士の早期離職^{7) 8) 9)}が多いから、郵送を中心とした広報よりも、幅広い年齢層が、簡便に情報収集がしやすいホームページやSNSの活用をより充実させる必要があると指摘した。本年度は、幼児教育学科のHPの特設サイトがリニューアルされ、潜在保育士復職事業研修用のページも確保された。今後、これらの充実を図るとともに、本学の卒業生に対して本研修を積極的に受講するよう推奨していくことも今後の課題である。

2点目として、今後も実現場に即した研修内容の充実を試みる必要がある。本講座は、現場経験はないが過去に保育士の資格を取得した方や、保育士試験に合格した方を対象にしている。保育に関わる制度は、刻々と変化しており、また度重なるカリキュラムの変更で、過

去に学んだ学習内容だけでは現場にでて不十分な事項が含まれる。そのため、社会的ニーズの変動や制度変更を踏まえたうえで、最新の動向を含めたカリキュラム編成が求められる。

3点目にリカレント教育と、潜在保育士復職支援の融合である。現状では、基本的な事項の学習の場として、現役保育者と潜在保育士がともに学ぶ機会が整備されている。しかし、同じ講義を受講するという意味合いよりも、より積極的にコミュニケーションを図り、情報共有できる関係を構築していくことは有意義であると思われる。現状では、情報交換会においてこのような関りが認められるが、現役保育者の出席は控えられる傾向があるため、より積極的な参加を求めている。

保育現場の人で不足は今なお深刻であり、潜在保育士の復職への受容は今後ますます高まっていくものと考えられる。さらに2019年10月から始まった、保育料の無償化制度による今後の影響は未知数である。活力ある保育現場を下支えするためにも、本活動を今後も継続していきたいと考えている。

謝辞

「相談援助」の講座は、都合により本学科の担当教員が担当できなくなったため、村田恵子先生（就実大学教育学部初等教育学科）にご協力いただき講座を行いました。この場をお借りして感謝申し上げます。

V. 参考文献

- 1) 岡山市ホームページ 令和元年5月30日市長記者会見資料 岡山市の保育園・認定こども園等の入園状況と待機児童数について
<http://www.city.okayama.jp/contents/000373552.pdf>
- 2) 松本希・鎌田雅史・秋山真理子・荊木まき子・伊藤優・小谷彰吾・土田耕司・柴川敏之・ズビャーギナ章子・土倉由妃・澤津まり子（2018）「潜在保育士復職支援研修及び卒後リカレント教育 - 2018年度活動報告 - 」『就実論叢』48, pp.170-171.
- 3) 岡山市, 岡山っ子育成局保育・幼稚部就園管理課「入園申込児童数（待機児童数）の推移」http://www.city.okayama.jp/okayamakko/kodomoen/kodomoen_00030.html（最終検索日：2018年10月23日）
- 4) 岡山市, 岡山っ子育成局保育・幼稚部就園管理課「入園申込児童数（待機児童数）の推移」http://www.city.okayama.jp/okayamakko/kodomoen/kodomoen_00030.html（最終検索日：2018年10月23日）
- 5) 厚生労働省（株式会社ポピンズ）, 「潜在保育士ガイドブック（保育所向け報告書）」
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/000123468.html>（最終検索日：2018年10月23日）

- 6) 澤津まり子・田中誠・秋山真理子・松本希・鎌田雅史・笹倉千佳弘・柴川敏之・Z. 山田章子・荊木まき子・伊藤優 (2016) 「潜在保育士復職支援研修及び卒後リカレント教育の活動報告」『就実論叢』46, pp.199-205.
- 7) 柴川敏之・笹倉千佳弘・Z. 山田章子・荊木まき子・伊藤優・田中誠・鎌田雅史・秋山真理子・松本希・澤津まり子 (2017) 「潜在保育士復職支援研修及び卒後リカレント教育 - 2017年度活動報告 - 」『就実論叢』47, pp.221-228.
- 8) 澤津まり子・鎌田雅史・山根薫子 (2015) 「潜在保育士の実態に関する調査研究 - 離職の要因を探る - 」『就実論叢』45, pp.191-200.
- 9) 神戸康弘, 上地玲子, 松浦美晴, 鳥越亜矢, 森英子, 中川淳子, 荒島礼子 (2016) 「潜在保育士のキャリア研究 - 20代30代保育士の「退職者」と「継続者」の比較による離職防止研究 - 」『山陽論叢』23, pp.49-64.
- 10) 遠藤知里・竹石聖子・鈴木久美子・加藤光良 (2012) 「新卒保育者の早期離職問題に関する研究Ⅱ: 新卒後5年目までの保育者の「辞めたい理由」に注目して」『常葉学園短期大学紀要』43, pp.155-166.
- 11) 森本美佐・林悠子・東村知子 (2013) 「新人保育者の早期離職に関する実態調査」『奈良文化女子短期大学紀要』44, pp.101-109.
- 12) 松浦美晴・上地玲子・皆川順 (2015) 「潜在保育士問題解決解消に向けたリアリティショック研究の可能性の考察」『山陽論叢』22, pp.87-100.